

# 高等学校 国語科

## 国語総合（1年）単元名：「相手に応じた理由や根拠を選択しよう」

府立北かわち阜が丘高等学校 授業者 指導教諭 浅野 裕傑

### I 単元を通して育成をめざす資質・能力

【めざす生徒の学ぶ姿】

犬(猫)が好きな理由について、主張を支える理由や根拠を読み手に合わせて選んだり、表現を工夫したりしながら、読み手から納得や共感を得るような自分なりのよりよい文章を書くことができる

【学習指導要領(平成30年度告示)との関連】

「現代の国語」〔知識及び技能〕(1)オ、〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(1)ウ

【本単元における言語活動】

「現代の国語」〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと(2)ア・イ

知識及び技能	効果的に自分の考えが読み手に伝わる文章構造や言葉の使い方について理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	自分の考えや事柄が読み手から納得や共感を得られるよう、根拠の示し方や文章の構成を工夫して書くことができる。【書く能力】
学びに向かう力、人間性等	自分の考えや事柄が読み手から納得や共感を得られるよう、根拠の示し方や文章の構成を工夫して書くとしている。

### II 単元計画(資質・能力育成のプロセス) 全3時間

時	めざす生徒の姿	学習活動・学習内容	教師の支援・指導 (★深い学びを生み出す工夫)
1	「読み手が納得や共感できる理由や根拠とは？」	<p><b>○主張を支える理由や根拠を複数挙げる活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の論理構造(総括型【主張-理由-根拠-主張】)について理解する。</li> <li>「読み手から納得や共感を得るための理由や根拠を選択し、工夫して文章を書くことができる」という目標を提示し、まず犬(または猫)のいずれかを選び、それが好きな理由を10個書く。</li> <li>書き出した理由を基に総括型で文章を書く。</li> <li>書き出した文章の中から数名の生徒が発表し、それぞれの違いを考える。</li> </ul>	<p>○主張と理由の関係を整理するために、中学校で学習した総括型を示し、今回書く文章の概要を確認させる。</p> <p><b>読み手から納得や共感を得るためにはどのような理由や根拠が必要だろう</b></p> <p>○生徒が書いた実際の文章からより相手から納得や共感を得るために必要な要素について主体的に気付かせる。</p> <p>★周りの生徒の文章を確認させ、理由の中に納得や共感できるものとできないものがあることを確認し、より相手に自分の考えを伝えるために必要な要素について考えさせる。</p>

2	「一般性と独自性を使い分けことが大切なんだ！」	<p><b>○自分が挙げた理由や根拠に含まれる要素について考えさせる活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風景の写真を見て、気付いたことを箇条書きで10個書く。</li> <li>自分が書いた内容が、他者と共通しているのか、またその内容を何番目に書いたかを確認する。</li> <li>一般性(どんな人からも共感を得やすい視点や捉え方)と独自性(その人特有の視点や捉え方)がもつメリット、デメリットについて自分の意見を書く。</li> <li>第1時で書いた自分の文章を見直し、自分が伝えたい主張に適した理由を吟味する。</li> </ul>	<p>○写真全体を漠然と俯瞰して見るだけでなく、部分に着目するなど多面的な視点がなければ多くの気付きが生まれにくいことを示唆し、必ず10個の気付きを書くよう指示する。</p> <p>○数名の生徒に書いた内容を発表させ、同じことを書いている生徒とその内容を何番目に書いたかを挙手によって、人数を確認する。</p> <p><b>みんなが始めに書いたものと最後に書いたものを比較し、何か気付いたことはあるかな</b></p> <p>★一般性と独自性のメリット、デメリットについて考察させ、生徒の意識を次時の文章作成につなげる。</p>
3	「この理由を選べば、文章を読んだ相手はこんな風を感じてくれそうだ！」	<p><b>○学んだ知識を自分の価値観と結び付け、よりよい文章を組み立てなおす活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再度、自分が犬(猫)を好きな理由を、今度は読み手を「初対面の人」と「友人」に設定して書き直す。</li> <li>単元の学習を振り返り、文章を書くにあたって工夫した点や今後、文章を書く際に意識すべき点等について記述する。</li> </ul>	<p><b>なぜ、その理由を選んだのか、その意図を考えて書いてみよう</b></p> <p>○第1時で書いた文章と第3時で書いた文章の違いや変容について気付かせる。</p> <p>★具体的な読み手を設定したことで、文章中の言葉遣いや理由の選び方に変化が生まれたことに気付かせる。</p>

### III 深い学びを実現するための指導の工夫

◆目標を理解し、見通しをもたせる(第1時)

「犬(猫)が好きな理由を読み手に応じて工夫して書く」という身近な課題を設定し、生徒に「できそうだ」という見通しをもたせる。また「読み手から納得や共感を得るための理由や根拠を選択し、工夫して文章を書こう」という目標を生徒と共有し、単元全体の見通しをもたせる。第1時では、中学校で学んだ総括型を活用し、既存の知識を再認識させて文章を書かせる。

◆気付きを促し、よりよく書くことにつなげる(第2時)

「読み手から納得や共感を得る理由や根拠」に必要な要素に気付かせる活動となる。ここでは一方的にその要素を伝えるのではなく、生徒の記述を全体共有して比較し合うことで「一般性」と「独自性」の二面性に気付かせ、実感を伴う理解をめざす。この活動によって、第1時であげた10個の理由の捉え方が生徒の中で大きく変化することになる。単元の目標に大きく迫る要となる時間である。

◆言葉に対して自覚的に向き合いながら学びを実感する(第3時)

「初対面の人」、「友人」という具体的な読み手を設定したことで、生徒は自分が理由や根拠として選んだ言葉が読み手に与える印象や意味を捉え直しながら、再び文章を書く活動に向かう。その際、なぜその理由を選択したのかを記載させることで、読み手への主張や読み手と自分との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、生徒が自覚しながら言葉を選んでいくようにする。また、単元末にこの学習で身に付いたことを文章で整理し、生徒自身が学びの手応えを自覚的につかむことができるようにする。

#### IV 生徒はどのような学びを実現したか

##### ○読み手や自分の主張に合わせて言葉を見つめなおし、その価値を考えながら追究しようとする生徒

本実践では、想定した読み手(「初対面の人」と「友人」)に合わせて適切に選んだり、伝わり方を考えて説明の仕方を工夫したりして、書くことを目的とした。単元を学ぶ前において、生徒は主張や考えをよりよく伝えるために理由や根拠を示す必要性は理解しているものの、読み手に合わせた理由や根拠の選択や示し方についてまで意識が及んでいない。しかし第2時での写真を見て気付きを書き、その内容の一般性と独自性について整理をすると、生徒の思考が一気にアクティブとなり、第3時に再度、文章を書く際には、生徒は自身が挙げた理由や根拠に対する見方が変わり、**言葉に対する自覚的な意識**が芽生えていた。一連の活動により、複数の理由や根拠を見つめ直し、どの理由を何のためにどうやって文章に活用するかを考えながら選択することが可能となり、生徒一人ひとりが「読み手にどう感じてもらいたいのか」が明確となった文章が多く見られた。

#### ポイント①

#### 第2時

##### ☆一般性と独自性の両面性を自覚し、よりよく書くための要素に気付く！

写真を見て わかったこと	書いた 人数	最初5 番目に 書いた 人数
一面にひまわりが咲いている	36	39
風車がある	33	36
木がある	33	36
奥に建物がある	35	33
自然に囲まれている	10	35
人がいない	15	10
奥の建物に続く門がある	1	35
山の中にこの建物がある	5	1
奥に人がいっぱいいる	3	3
後方にある建物からわからない	1	1

↑第2時の板書(イメージ)

(授)何か気付いたことは？  
 (生)最初と最後に出した内容に差があるなあ。  
 (授)そうだよね、**違いは何か？**  
 (生)**最初に書いたものには、みんなが共通して気付いたことだけど、最後の方は 独自の視点や気付が多い**よね。  
 (授)その通り！つまり一般性と独自性があるということ。  
 じゃあ、**それぞれのメリットやデメリットは何だろう？**

##### 【生徒の記述から】

	メリット	デメリット
一般性	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが共感できる</li> <li>誰でもわかる、わかりやすい</li> <li>すぐに思いつくことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい発見がしづらい</li> <li>面白みがない</li> <li>他人が書いた内容と重複することが多い</li> <li>その人固有の考えがわかりづらい</li> </ul>
独自性	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろんな発見があって面白い</li> <li>細かい特徴を捉えられる</li> <li>気付かなかった側面や考えを知ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共感が得づらい</li> <li>頑張って説明しないと、理解してくれる人が少ない</li> </ul>

##### 【授業者のまとめ】

「一般性も独自性もどちらにもメリット、デメリットがあるんだね。共感しやすいかも知れないけど、オリジナリティに欠けたり、一方で面白いけど伝わりにくいこともある。じゃあ前の時間に書いた文章を見ると、どの理由を選ぶかを考えて整理して書いていたかな？」  
**「次回は、直感ではなく考えて文章を書いてみよう」**

##### 授業者はココを見る！

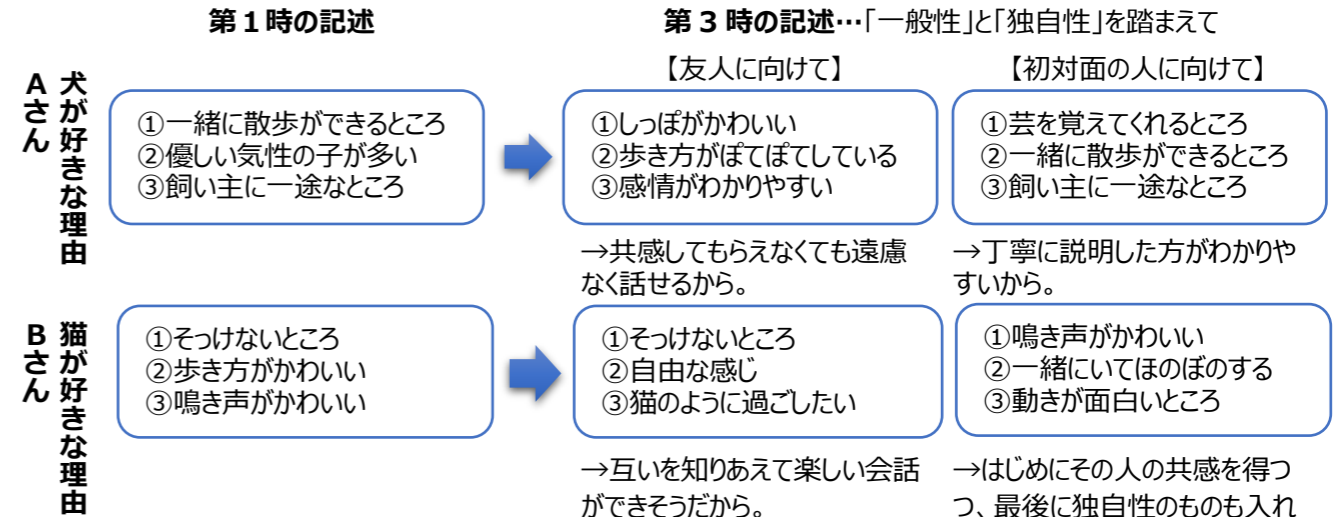
一般性と独自性の両面性を自覚しているか？

ワークシートにおいて生徒が書いた一般性と独自性もつメリット、デメリットの記述を机間指導により確認し、その両面性に気付いていることを確認する。  
 → 次時での文章作成に対する意欲の醸成

#### ポイント②

#### 第3時

##### ☆気付きを活かして、言葉のもつ意味や価値を捉え直す！



##### 【振り返りの記述から】

・これから文章を書くときに使える、自分のためになる授業だと思いました。  
 ・今までは理由が見つければ、それで良いと思っていたけど、その中から選択する重要性を知ることができた。  
 ・私は文章を書くことがすごく苦手なので、今回の授業で共感を得るためや自分を知ってもらうためといった、読んでもらう意図をきちんと持つ大切さを学んだので、今度、文章を書くときにつかいたいと思います。  
 ・読み手に合わせた最適な理由選択ができた。

生徒の思考が、「どんな理由を書くか」から「なぜその理由や根拠を示すのか」へ、転換している様子が、振り返りの記述からわかります。

##### 授業者はココを見る！

読み手にどう思われたいか、明確な意図をもって理由や根拠を選択することができるか？

書く目的に即して、理由や根拠を精選する重要性に気付いているかを生徒の文章や振り返りの記述から見取る。

→系統的な「書く能力」の育成に向けて、今後の指導に活用

#### V 実践を終えて

##### 授業者より

生徒たちに今後、自分の考えを的確な言葉で表現できることはもちろん、読み手に自分の文章からこんなことを感じて欲しい、考えて欲しいといった明確な意図をもった文章を書いてもらいたい。だからこそ年間を見通して計画的かつ系統的な指導が必要となる。今回は、理由や根拠を読み手や目的に応じて選択する活動を通して、はじめはテーマに合致した文章を書くだけだった生徒が、読み手にこんなことを思って欲しいといった具体的な意思をもち、文章と向き合うようになった。一方で文章全体の構成や表現の工夫等についてはまだ課題が残る結果となった。今回の学習において、生徒一人ひとりの推敲力を高め、文章表現能力の向上に資するものであったと感じる。本実践を踏まえて、今後は読み手の感じ方や読み手の理解する過程を意識した、論理の展開ができるような「書く能力」の育成に向け指導にもつなげていきたい。

##### ☆年間の「書く能力」の指導の流れ(イメージ)

